

台湾研修が再開

裕毛屋でブドウの販売プロモーション活動



台中市の高級スーパーで、グローバル認証を取得しているブドウの販売研修に取り組み丹原高生ら(同校提供)

6名の生徒が参加しました。ブドウの販売プロモーション活動は盛況、インターンシップ、最先端技術工場見学など、台湾の産業、文化・歴史、現地の方と触れ合い、生徒にとって、人生において、かけがえのない、充実した研修となりました。

丹精ブドウ 台湾でPR

丹原高生 4年ぶり販売研修

農産物の生産工程管理に関する国際規格「グローバルGAP」認証をブドウで取得し、台湾での販売研修を続けている丹原高校(西条市丹原町願連寺)の生徒6人が8月下旬、現地で販売研修などに臨んだ。新型コロナウイルス禍の影響で、同校の訪台は4年ぶり。生徒らは「いろんな気づきがあり、貴重な経験ができた」と振り返った。

国際規格認証85房完売

実習ではオレンジ色の証は主に3年生が引き継法被姿で買い物客にアピギ、今年も7年目の認証ール。試食の感想では「こちら好みよりも酸っぱい」などの厳しい意見もあつたものの、日本の高校生が育てたことや品種の魅力などをPRし、輸出した85房は無事完売した。園芸科学科3年近藤里麻さん(17)は「自分から話しかけないと、目にとめてもらえない。積極的に自分から動く大切さを学んだ」という。グローバルGAPの認

証は主に3年生が引き継ぎ、今年も7年目の認証を取るための手続きを既に終えている。近藤さんは「手続きに関わった分、自分たちのブドウがどう売られていくのかを見てみたかった」と、同科3年菅野星空さん(17)も「大関野星空さん(17)も「大関野星空さん(17)も」

同校は2018年にグローバルGAP認証を取得し、台中市の高級スーパー「裕毛屋」での研修を開始。2022年は新型コロナウイルスの影響で渡航できなかった。(高橋圭太)